

他誌掲載論文

食品中に含まれる微量農薬の分析法と精度管理体制の構築に関する研究

尾花裕孝*¹ 畠山えり子*² 土田由里子*³

上野英二*⁴ 田中健*⁵ 田中敏嗣*⁶ 河瀬志保*⁷

堤 泰造*⁸ 衛藤修一*⁹

厚生労働科学研究費補助金（食品の安心・安全確保推進研究事業）検査機関の信頼性確保に関する研究、平成 20 年度総括・分担報告書、23～117, 2009

平成 20 年初頭に冷凍餃子への農薬混入事件が発覚したため、加工食品に対する農薬分析の需要が喚起された。そこで、加工食品中の農薬分析への対応の可否を検証するため、9 地方衛生研究所による内部精度管理試験および外部精度管理試験を実施した。

カレーのように香辛料や多種類の食材を含む試料を用いての一斉分析は、現時点では高い精度を得ることは困難であると思われるが、有事に際した即応性は高く評価できると思われる。

腸管出血性大腸菌 0157 の分子疫学的解析における PFGE 法と IS-printing 法および MLVA 法の有効性比較

末永朱美 田中寛子 花木陽子

毛利好江 蔵田和正* 石村勝之

池田義文 笠間良雄 吉岡嘉暁

広域における食品由来感染症を迅速に探知するために必要な情報に関する研究

20 年度総括・分担研究報告書及び平成 18～20 年度総合研究報告書、143～146, 2009

腸管出血性大腸菌 O-157 感染事例の迅速で詳細な解析が可能な分子疫学的解析法の確立を目的に、MLVA 法および IS-printing 法を行い、PFGE 法と比較した。型別の分離能力に差はあるものの、3 法ではほぼ一致した結果を得ることができた。この結果から、常に一致するとは限らないが、いずれも PFGE 法と同等に解析が行えるものと考えられた。

*1：大阪府立公衆衛生研究所

*2：岩手県環境保健研究センター

*3：新潟県保健環境科学研究所

*4：愛知県衛生研究所

*5：奈良県保健環境研究センター

*6：神戸市環境保健研究所

*7：広島市衛生研究所

*8：徳島県保健環境センター

*9：北九州市環境科学研究所

*：現 環境局施設部施設課

食品の微生物検査法と食中毒発生時の疫学調査法

4. 芽胞形成菌

石村勝之

日本防菌防黴学会誌、37(1), 69～78, 2009

食品衛生に関係する細菌の中で、「芽胞（スポア, spore）」を形成する能力を有する「芽胞形成菌」は、その芽胞の耐熱性や殺菌剤、消毒剤などの薬品類への耐性など、各種の物理・化学的環境ストレスへの高い抵抗性から、食品の製造、流通、販売の各段階で残存し、発芽、増殖して腐敗、変敗、あるいは食中毒の原因となっている。本稿では、芽胞形成菌における芽胞の性質、分類、分布、腐敗・変敗、および本邦の告示法、欧米の ISO 法などの、現在の内外検査方法等について概説し、食品微生物検査者および関係者の参考に供した。

広域における食品由来感染症を迅速に探知するために必要な情報に関する研究

中嶋 洋*¹ 蔵田和正*² 他

20 年度総括・分担研究報告書及び平成 18～20 年度総合研究報告書、116～128, 2009

平成 18 年度から 20 年度に中国四国地域で分離された腸管出血性大腸菌 O-157 感染事例株を用いて、パルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) 法および IS-printing system 法を比較し、疫学解析ツールとしての両法の評価を行った。総合的には PFGE 法の解析能力が高かった。また、平成 18 年度と平成 20 年度に中国四国地域衛生研究所間で実施した PFGE 法の精度管理は、全体的に良好な結果が得られた。

*1：岡山県環境保健センター

*2：現 環境局施設部施設課